



株式会社 シーアンドエス (証券コード:7437)

2003/2期決算報告

2003年4月15日



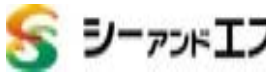
取締役資金管理本部長 平野 俊文



取締役資金管理本部長 平野 俊文



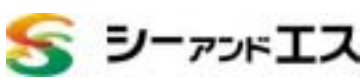
1. シーアンドエスグループ店舗数

(単位: 店)

	 サークルK	 サンクス	 シーアンドエス	前期比
出店数	230	188	418	+9
閉店数	103	69	172	-5
本体期末店舗数	2,710	2,257	4,967	+246
出店数	32	125	157	-21
閉店数	16	40	56	+21
エリア期末店舗数	261	1,013	1,274	+101
出店数	262	313	575	-12
閉店数	119	109	228	+16
グループ期末店舗数	2,971	3,270	6,241	+347

2. 新店の状況

(単位:店)

	 サークルK	 サンクス	 シーアンドエス
新店合計	230	188	418
新設店	204	160	364
リロケート店	26	28	54
新店平均日販	44万円	49万4千円	46万3千円

(注) エリアFCを除く

■ サークルKは計画通り、サンクスは計画比-12店

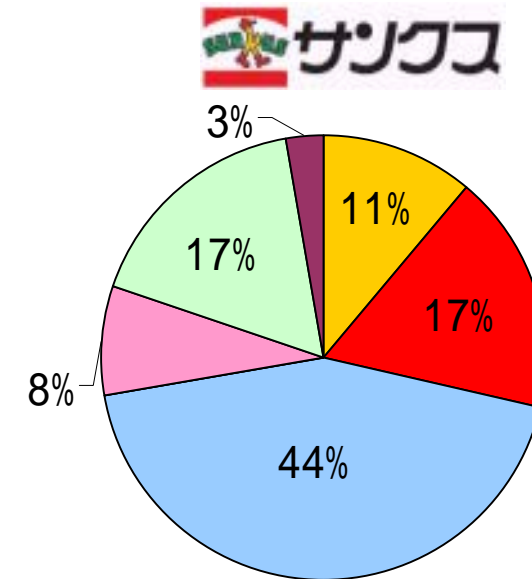
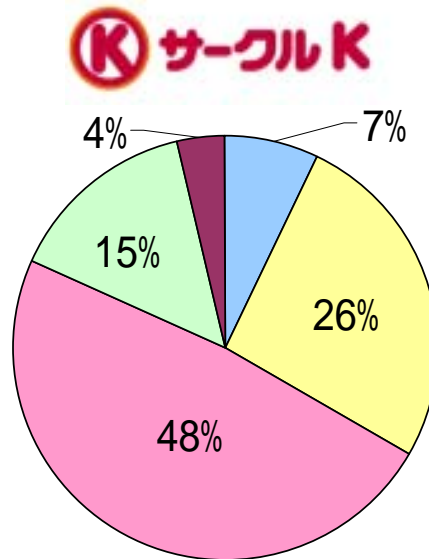
■ 質重視の出店で新店の平均日販は向上

サークルK : 前期比 **+1万9千円**

サンクス : 前期比 **+3万8千円**

3. 地域別店舗数、出店数

店舗構成比



出店の状況

主力地域は出店数が多い

・サークルK：中京3県、中部・北陸

・サンクス：関東

リロケートにも注力



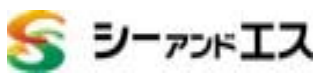
(単位：店)

	サークルK	サンクス
北海道	-	17
東北	-	27
関東	27	77
中部・北陸	64	-
中京3県	82	19
関西	49	38
中国	8	10
全国	230	188

(注) エリアFCを除く

4. シーアンドエスグループ業績

(単位:百万円)

	 サークルK	 サンクス	 シーアンドエス	前期比
本体売上高	485,670	406,219	891,889	+3.7%
既存店前年比	-1.6%	-2.5%	-2.0%	-
グループ売上高	521,901	571,658	1,093,560	+4.6%
既存店前年比	-1.7%	-2.5%	-2.2%	-
平均値入率	28.0%	28.8%	-	-
営業総収入	93,090	65,223	158,313	+2.9%
営業総利益	65,789	56,942	122,731	+2.9%
営業利益	14,107	10,927	24,168	-1.5%
経常利益	13,754	10,656	23,574	+0.8%
当期純利益	7,432	4,835	11,490	+1.6%

5. 業績の要因分析 ~ 既存店前年比、平均値入率

(単位:百万円)

	🇯🇵 サークルK		🇯🇵 サンクス		🇯🇵 シーアンドエス	
		前期比増減		前期比増減		前期比増減
本体売上高	485,670	+18,340	406,219	+13,109	891,889	+31,448
既存店前年比	-1.6%	-	-2.5%	-	-2.0%	-
平均値入率	28.0%	-0.2%	28.8%	-0.1%	-	-
営業総収入	93,090	+1,628	65,223	+2,796	158,313	+4,424

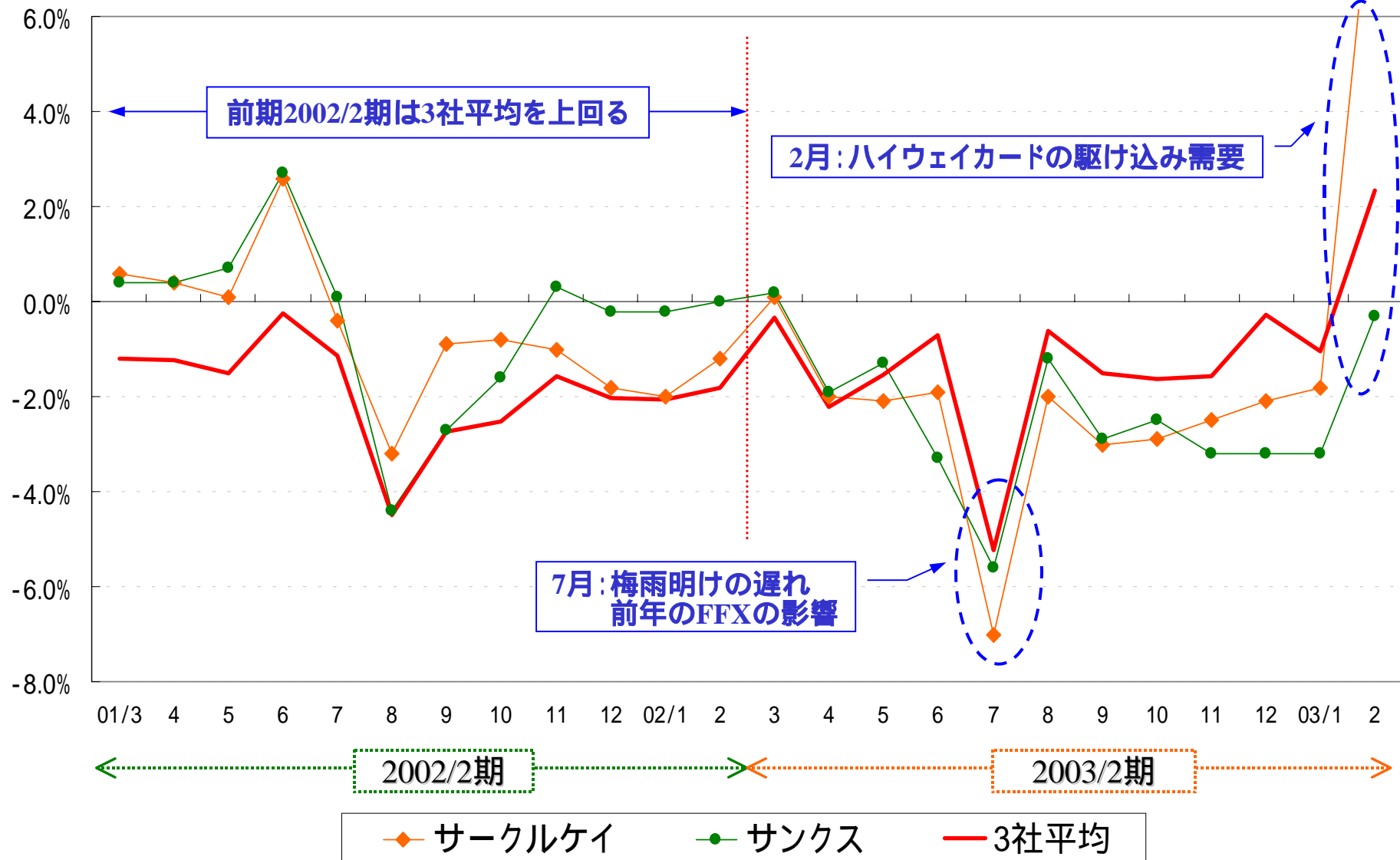
既存店前年比マイナスの主な要因

前期、比較的良かったことによる反動
 主力商品であるファーストフード、またソフトドリンクの不振
 サンクスにおいては酒販売の不振と、北海道や東北での不振

平均値入率が向上しなかった主な要因

商品の販売構成比の変化
 特にサークルKでは2月のハイウェイカード駆け込み需要による影響

6. 既存店前年比の業界比較



(注)3社平均とは、セブン-イレブン、ローソン、ファミリーマート3社の単純平均です。



7. 商品分類別日販の動向

商品分類	日販	サークルK	サンクス	商品分類	日販	サークルK	サンクス
ファーストフード	10 万円			酒類	4 万円		×
米飯	-	×	×	雑誌・新聞	4 万円	×	×
調理パン	-		×	雑誌	-	×	
調理麺	-			新聞	-		×
惣菜	-			化粧品	1 万円	×	
生鮮食品	6 万円			タバコ	7 万円	×	
食パン・菓子パン	-			サービス類	4 万円		
牛乳・チルド飲料	-			プリペイドカード	-	×	×
加工食品	14 万円			ハイウェイカード	-		
ソフトドリンク	-			チケット	-		
ラーメン	-		×				
ポケット菓子	-						

記号	店前年比	判定
	100%以上	前年並み、又は前年比プラス
	96%～99%	やや苦戦
×	95%以下	苦戦

8. 地域別売上の状況

既存店前年比

	 サークルK	 サンクス
北海道	-	-5.0%
東北	-	-4.3%
関東	0.9%	-1.6%
中部・北陸	-2.9%	-
中京3県	-1.6%	-0.4%
関西	-0.7%	-3.3%
中国	-2.2%	4.7%
全国	-1.6%	-2.5%

サークルK

比較的堅調 中京3県、関東、関西

苦戦 中部・北陸、中国




サンクス

比較的堅調 関東、中京3県、中国

苦戦 北海道、東北、関西

5. 業績の要因分析 ~ 既存店前年比、平均値入率

(単位:百万円)

	 サークルK		 サンクス		 シーアンドエス	
		前期比増減		前期比増減		前期比増減
本体売上高	485,670	+18,340	406,219	+13,109	891,889	+31,448
既存店前年比	-1.6%	-	-2.5%	-	-2.0%	-
平均値入率	28.0%	-0.2%	28.8%	-0.1%	-	-
営業総収入	93,090	+1,628	65,223	+2,796	158,313	+4,424


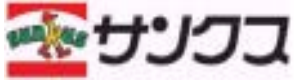
既存店前年比マイナスの主な要因

前期、比較的良かったことによる反動
 主力商品であるファーストフード、またソフトドリンクの不振
 サンクスにおいては酒販売の不振と、北海道や東北での不振

平均値入率が向上しなかった主な要因

商品の販売構成比の変化
 特にサークルKでは2月のハイウェイカード駆け込み需要による影響

9. 商品群別値入率の前期比増減

				
	値入率 前期比増減	売上構成比 前期比増減	値入率 前期比増減	売上構成比 前期比増減
ファーストフード	±0.0%	-0.1%	+0.2%	-0.3%
生 鮮 食 品	+0.4%	+0.2%	+0.3%	+0.3%
加 工 食 品	+0.4%	-0.7%	+0.5%	-2.1%
食 品 小 計	+0.2%	-0.6%	+0.3%	-2.1%
非 食 品	-0.2%	-0.3%	-0.1%	+0.1%
サ ー ビ ス	-1.2%	+0.9%	-1.2%	+2.0%
全 商 品	-0.2%	-	-0.1%	-

米飯類が不振



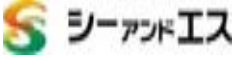
ソフトドリンクが伸び悩み

たばこの売上好調

チケット類の取扱いを強化
2月のハイウェイカード駆け込み需要

10. 業績の要因分析 ~ 連結の販管費、連結営業利益

(単位:百万円)

	 サークルK		 サンクス		 シーアンドイース	
		前期比		前期比		前期比
営業総利益	65,789	+1,854	56,942	+1,657	122,731	+3,512
販管費	51,682	+1,941	46,014	+1,954	98,562	+3,889
地代家賃	14,960	+1,591	15,951	+1,561	30,965	+3,170
設備リース料	4,622	+552	5,708	+16	10,331	+569
その他	32,098	-205	24,354	+376	57,266	+148
営業利益	14,107	-86	10,927	-297	24,168	-376

連結営業利益が3億7千万円減少した主な要因

販管費が前期比38億円強増加

販管費増加の主な要因

固定費(地代家賃)の増加

- ・集客力の高い立地確保で店舗の地代家賃が増加

11. 業績の要因分析 ~ 連結経常利益、連結当期純利益

(単位:百万円)

	① サークルK		② サンクス		③ シーアンドエス	
		前期比		前期比		前期比
営業利益	14,107	-86	10,927	-297	24,168	-376
営業外損益	-353	-186	-271	-90	-594	-574
経常利益	13,754	+100	10,656	-206	23,574	+196
特別損益	-808	+57	-1,666	+166	-2,513	+262
当期純利益	7,432	-81	4,835	-84	11,490	+185

営業外損益前期比5億円改善の主な要因

営業外収益: 前期比6千7百万円増加

営業外費用: 前期比5億5百万円減少 **事業統合関連費約2億円がなくなった**

特別損益前期比2億6千万円悪化の主な要因

特別利益: 前期比6千2百万円減少

特別損失: 前期比1億9千9百万円増加 **固定資産処分損が約4億円増加**

12. 連結キャッシュ・フローについて

(単位:百万円)

	2002/2期	2003/2期	前期比増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	28,925	25,674	-3,251
投資活動によるキャッシュ・フロー	-19,683	-18,854	+829
配当金の支払額	-2,190	-2,584	-394
フリーキャッシュ・フロー	7,052	4,236	-2,816
財務活動によるキャッシュ・フロー	-3,245	-6,540	-3,295
現金及び現金同等物の増加額	5,996	279	-5,717

フリーキャッシュ・フローは前期比約28億円減少

財務活動によるキャッシュ・フロー
サンクスの社債償還で30億円を支出

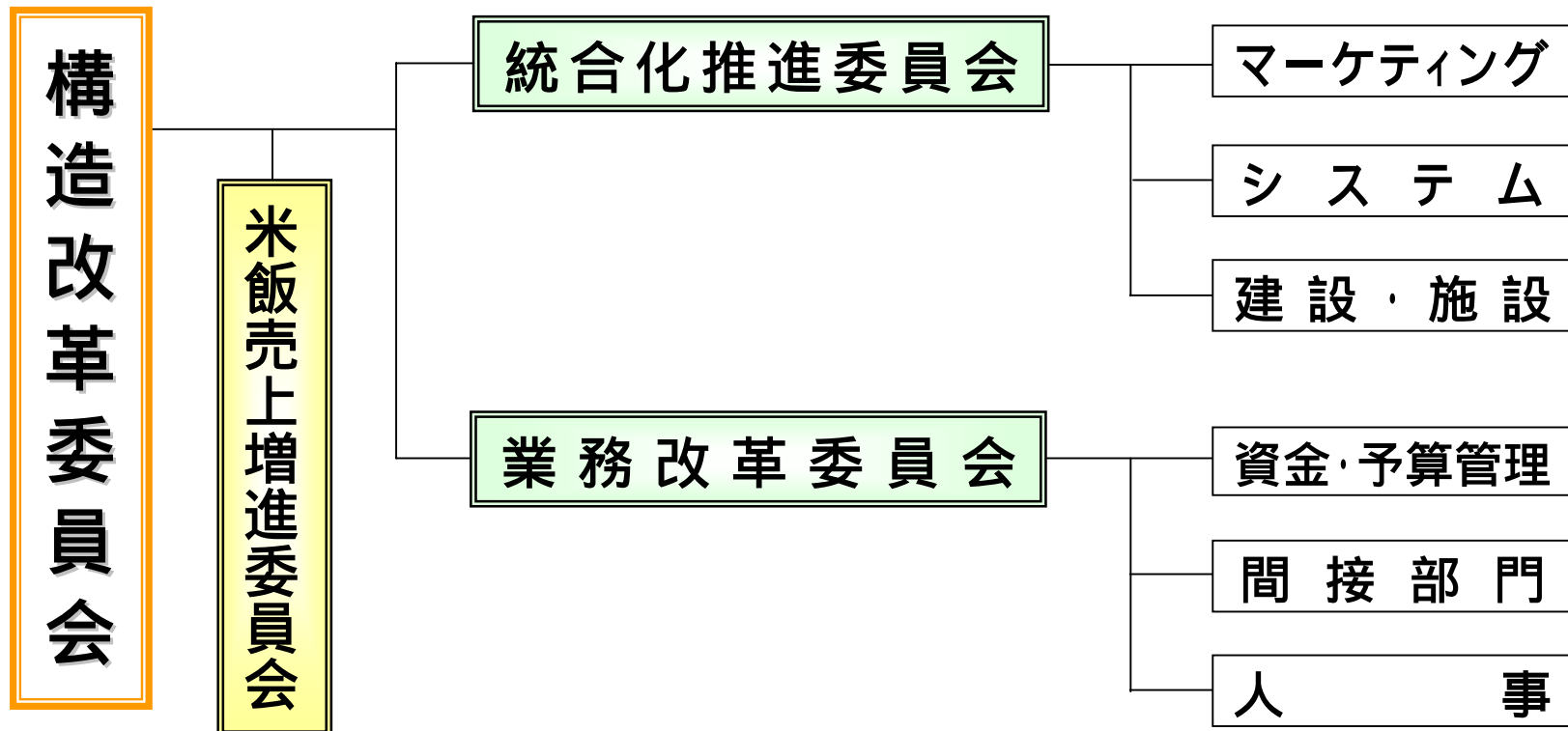
13. 2004/2期の取り組み

質的成長路線を構築する大規模な構造改革の年

1. 不採算店の一掃

2. 高コスト構造の見直し

3. 販売強化






14. 2004/2期の取組み 不採算店の一掃

不採算店舗を一掃

現在の不採算店、及び将来不採算店となる恐れのある店舗を大幅に前倒しで閉店 **シーアンドエスグループで450店**

2004/2期の出店計画

(単位:店)

		2004/2期計画		
		 サークルK	 サンクス	 シーアンドエス
	開店	200	200	400
	閉店	250	200	450
本体期末店舗数		2,660	2,257	4,917
	開店	32	125	157
	閉店	31	60	91
エリアFC期末店舗数		262	1,078	1,340
	開店	232	325	557
	閉店	281	260	541
グループ期末店舗数		2,922	3,335	6,257

□ 統合化推進委員会

・値入率0.2%改善へ

対象カテゴリー：菓子、加工食品、雑貨など

・建設・設備投資を約6億円削減へ

両チェーンでの建築資材等の仕様の統一を図る

□ 業務改革委員会

・店舗に関わる地代家賃1.7億円の削減を目指す

専任チームの元、既存店舗の家賃引き下げ交渉を行なう

・店舗消耗品で12億円の削減へ

スケールメリットを活かした交渉
加盟店に還元

□ 米飯売上増進委員会

シーアンドエス主導で米飯の発注増加を目指す



主力地域の名古屋、東京の店舗を中心に推進



主力商品である米飯の販売増進で、売上増加を図る

17. 2004/2期の通期業績予想

(単位:百万円)

	2003/2期			2004/2期 (予想)		
	サークルK	サンクス	C & S	サークルK	サンクス	C & S
本体	485,670	406,219	891,889	474,540	402,930	877,470
エリアFC	36,231	165,439	201,670	33,530	168,500	202,030
グループ売上高	521,901	571,658	1,093,560	508,070	571,430	1,079,500
既存店前年比(本体)	-1.6%	-2.5%	-2.0%	-5.8%	-4.8%	-
平均値入率	28.0%	28.8%	-	29.2%	29.4%	-
営業総収入	93,090	65,223	158,313	88,600	65,900	154,500
営業総利益	65,789	56,942	122,731	66,600	58,000	124,600
営業利益	14,107	10,927	24,168	14,400	9,300	22,700
経常利益	13,754	10,656	23,574	11,630	8,080	18,700
当期純利益	7,432	4,835	11,490	5,700	3,450	7,800

(注) 2004/2期の本体既存店前年比は2003年2月末日をもって販売を終了した、高額ハイウェイカードの影響で低くなっています。

18. 3ヵ年計画(連結ベース)

(単位:店、百万円)

(計画)	2004/2期	2005/2期	2006/2期
出店	400	425	435
閉店	450	160	180
本体売上高	877,470	899,100	945,500
営業利益	22,700	26,300	29,200
経常利益	18,700	25,100	27,700
当期純利益	7,800	12,500	13,900

(注) エリアFCを除く

19. 株主還元について

□ 配当政策

当面は連結当期純利益の約20%を配当として還元

将来的には、**配当性向を25%～30%まで高める方針**

□ 2003年2月期の配当金

・中間配当金(2002/8期中間):1株当り16円

・期末配当金(2003/2期) :1株当り16円の予定

年間配当金 32円、配当性向 24.2%

□ 株主優待

8月中間期末、2月期末の年2回「お買物カード」を贈呈

・ 100株以上:500円 2枚(×2=年 2,000円相当額)

・ 500株以上:500円 5枚(×2=年 5,000円相当額)

・ 1,000株以上:500円 10枚(×2=年10,000円相当額)